

日本精神保健予防学会「予防精神医学」巻頭言

金沢医科大学精神神経科学
川崎 康弘

現代社会では、こころの健康に注目が集まり、こころのケアにかかわるさまざまな取り組みが行われております。ことに、人々のこころの健康を保ち、精神疾患の予防と早期介入を進め、あらゆる人々が安心して過ごせる社会を作ることは、わが国のみならず、国際的にも重要な課題となっています。適切な予防や早期介入を実現するためには、医療のみならず、行政、保健、教育、福祉、科学など、関連するあらゆる領域の総力を結集し、かつ地域住民と一体となった取り組みが必要です。そして、不適切な介入による弊害を避け、安全かつ効果的な予防と早期介入のための方法論を確立するために、自由闊達な意見交換の場で議論と研究をかさねていくことが重要であると考えます。

さてこのたび、第23回 日本精神保健・予防学会学術集会を、2019年11月29日(金)・30日(土)の2日間、石川県金沢市の金沢市文化ホールを会場に、開催する運びとなりました。こころの健康の予防を扱う全国学会が、北陸の地で開かれるのは初めてのことであり、金沢医科大学が担当することになりましたことを、光栄に存じております。今大会のメインテーマを「こころの健康のために予防と早期介入の取り組みを広げよう」と、いたしました。全国各地の精神医療保健従事者が、それぞれの地域の現状に合わせて連携を深め、質の高い医療を届けるために奮闘する様子が示される場となり、明日からの新たな努力に向けた手がかりが得られる場となることを願っております。

大会では、興味深いシンポジウムが企画されておりますが、そのうちのひとつを紹介いたします。学校指導要領の改訂により2022年度から高校の保健体育の教科書に精神疾患の記述が40年ぶりに復活することとなりました。こころの不調や精神疾患についての知識を得ることで、自らのこころの不調に気づき、不調の予防に心がけることができる。さらに、自分のこころの不調に気づいてまわりの人々に相談できる力をつけていくことを「メンタルヘルスリテラシー」と呼びます。メンタルヘルスリテラシーの習得により、その人自身の対処力の向上や健康で快適な生活が得られるだけでなく、周りの人への支援にも繋がり、相互に助け合う社会の創造にも寄与することも期待されています。今回の改定を機に学校精神保健教育を端にこころの健康への関心が広まり、正しい知識に基づいた精神保健・予防活動がおこなわれるよう、学会を通じてわが国の精神医療保健従事者が最新の情報を共有し協働することが望まれますので、是非とも多くの職域の方々に参加いただき、活発な意見交換がなされることを期待しております。